
I. 障害者スポーツの基礎理解

障害者スポーツの基礎理解

(概論)

2005.1.15
岡山大学 三浦孝仁

我が国の障害者・児の状況

区分	総数(万人) ※1	総人口に対する割合(%) ※2
身体障害者・児	351.6	約2.8%
知的障害者・児	45.9	約0.4%
精神障害者	204.0	約1.6%

※1障害者数は、厚生労働省「障害者(児)の地域生活支援のあり方に関する検討会(第1回資料 3 障害者(児)の状況)より
 ※2日本の総人口は127,617(千人)平成15年10月1日現在推計人口
 (平成16年3月12日公表)総務省統計局年表より

岡山県の障害者・児の状況

	障害者種別			
	身体障害	知的障害	精神障害	
	手帳所持者	手帳所持者	手帳所持者	厚生労働省 「患者調査
	H14, 3, 31	H14, 3, 31	H14, 3, 31	H11実施
小計	74,130	9,577	1,113	約44,000
手帳 所持者	86,073			—
人口 比	総人口約195万人(約4%)			

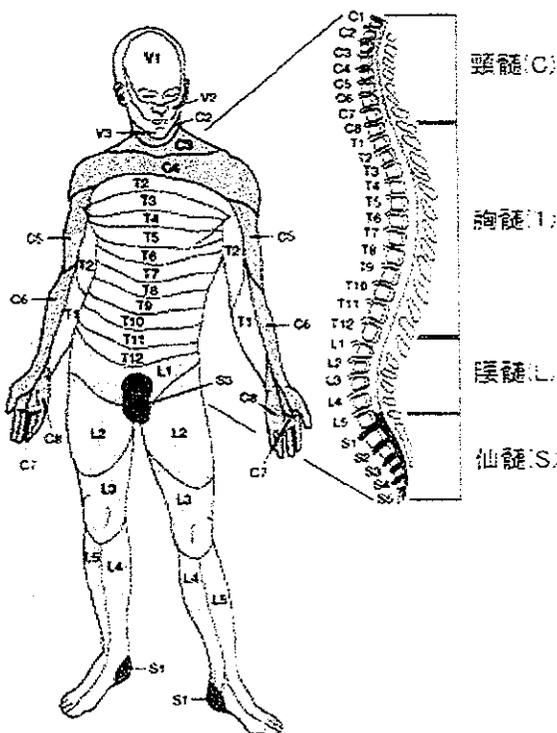
岡山県障害者長期計画～第2期行動計画～概要版 2障害者の現況より

身体障害の種類

- 視覚障害
- 聴覚・言語障害 (聴覚障害、平衡機能障害、音声・言語・そしゃく機能障害)
- 肢体不自由 (上肢切断、上肢機能障害、下肢切断、下肢機能障害、体幹機能障害、脳源性全身性機能障害、全身性運動機能障害)
- 内部障害 (心臓機能障害、呼吸機能障害、じん臓機能障害、膀胱・直腸機能障害、小腸機能障害、ヒト免疫不全ウイルスによる免疫機能障害)
- 重複障害

障害者と言っても種類や程度はさまざまである

脊椎と脊髄からの神経



頸髄: Cervical

頸神経C1~C7

頸損と胸損の1~7は運動性不良

胸髄: T

胸髄: Thracic

胸神経T1~T12

胸損8以下は、運動性良から優

腰髄: L

腰椎: Lumber

腰神経L1~L5

L2からL4は、バランス優

仙髄: S

仙骨: Sacral

仙神経S1~S5

S1からS2は、運動は良くでき、側

屈も可能

尾骨: Coccygis

馬尾神経

障害者スポーツの歴史

- 1995年 「ノーマライゼーション」の理念がデンマークの福祉法にとり込まれる。
- 1964年 東京に於いて第2回国際障害者スポーツ競技大会が開催され、**Paralympic**と称された。
- 1974年 「バリアフリー」の用語が国連障害者生活環境専門委員会の報告書に登場。
- 1980年代 「ユニバーサルデザイン」を提唱。

ノースカロライナ州立大学 ロナルド・メイス氏

- 1993年 「障害者基本法」 日本
- 1994年 「ハートビル法」 日本
- 障害者のためのスポーツから障害者と共に行うスポーツへ
ハンディキャップ・スポーツ→チャレンジ・スポーツ
→アダプティッド・スポーツ

TRスペシャリスト(米)1950年代後半～

- 障害者・高齢者等に適切なレジャー・ライフスタイルの計画・維持・表現を援助する専門職
- 4年制大学卒業以上の学歴と、10週間以上の実習及び筆記試験
- 病院やヒューマン・サービス・センター、レクリエーション関係の施設
- 基本概念: QOLはレジャー体験、自立、自己表現のための機会と密接に結びついている

.....
自然環境を利用したインテグレーション・プログラム
(障害を持つ人々が安全に参加し、十分にエンジョイするために工夫されたアウトドア・スポーツ・プログラム)

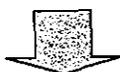
日本では、(財)日本障害者スポーツ協会 公認障害者スポーツ指導員
主に全国大会の円滑運営を目的に設置 1966年

チャレンジ・スポーツ

Duchenne型筋ジストロフィー

(1998 14歳)

呼吸機能・肺活量	1040ml(29.4%)
FEV1.0%	107.7% (70%以上)
血液ガス PH	7.344(7.38~7.46)
PCO2	44.8Torr(39~46mmHg)
PO2	87.5Torr(74~103mmHg)
HCO3 ⁻	23.7mmol/l(21~29mmol)
BE	-1.7(-2 ~ +2mml)
SaO ₂	95.3%(94~98%)
心エコー EF	57.4%(50%以上)
右室収縮筋	正常~軽度低下



SCUBA DIVING

サリドマイド

非バルビレート系催眠薬の一種を妊娠初期(受胎21~36日)に使用することにより胎児にアザラシ肢症などの奇形が生まれた。
現在は使用禁止。
1962年に回収。
1969年が最後のアザラシ肢症。



バトミントン



ダンス

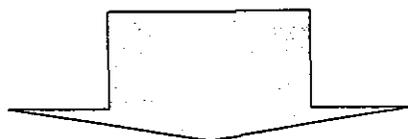
障害者とスポーツの発展



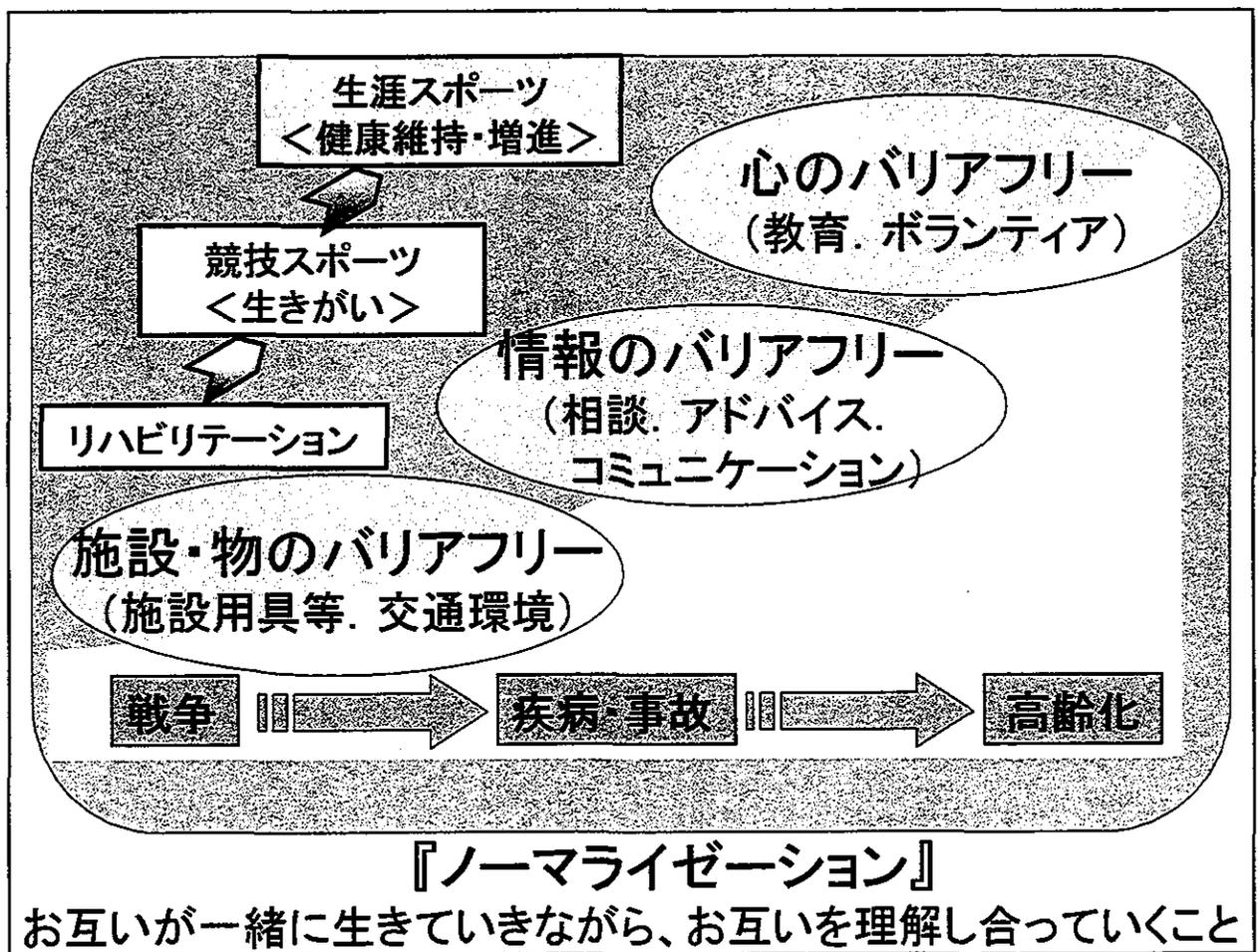
傷痍軍人のリハビリテーション



交通事故による障害者



高齢化社会にともなう障害者の増加



障害者スポーツの特徴

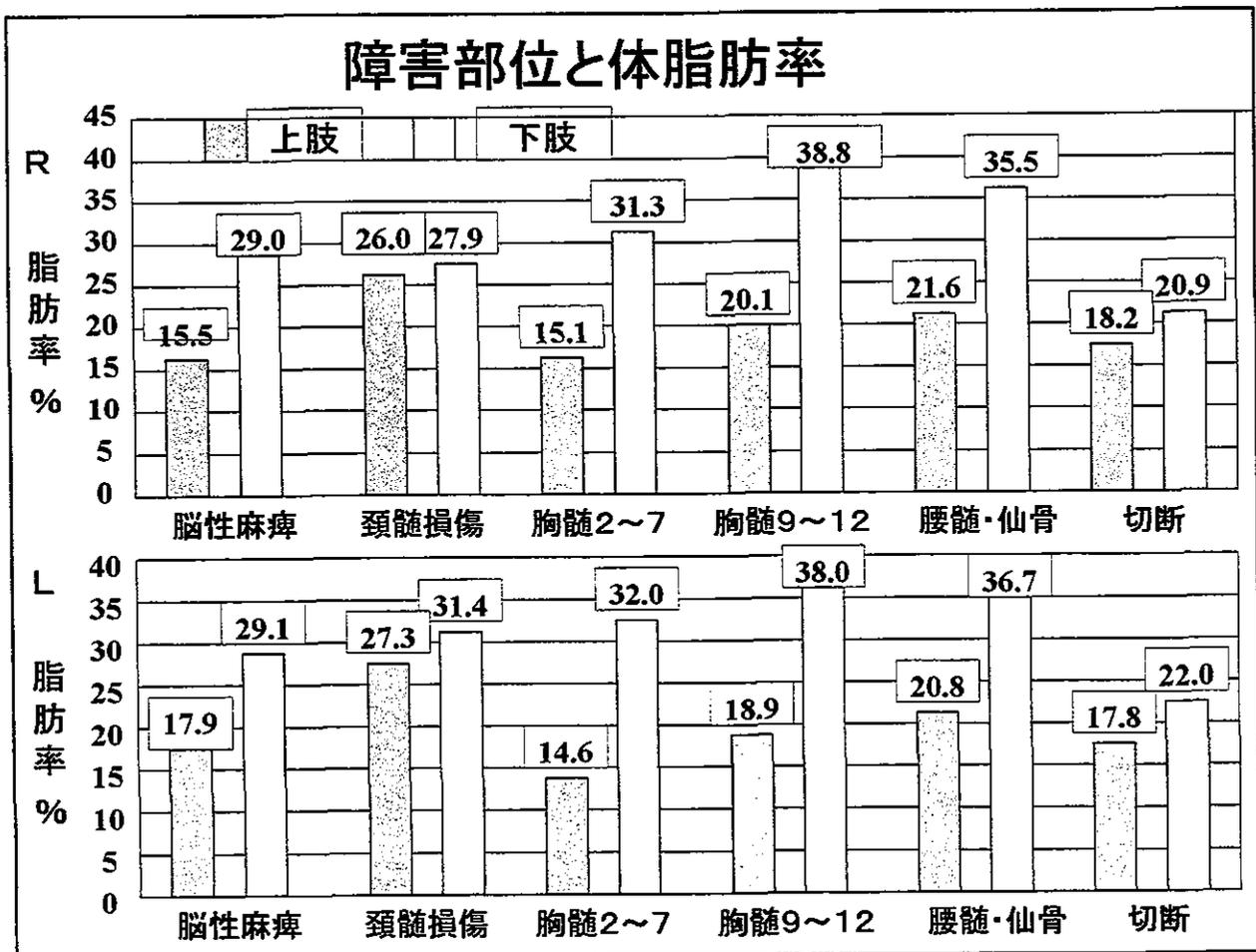
• 障害受容の経験

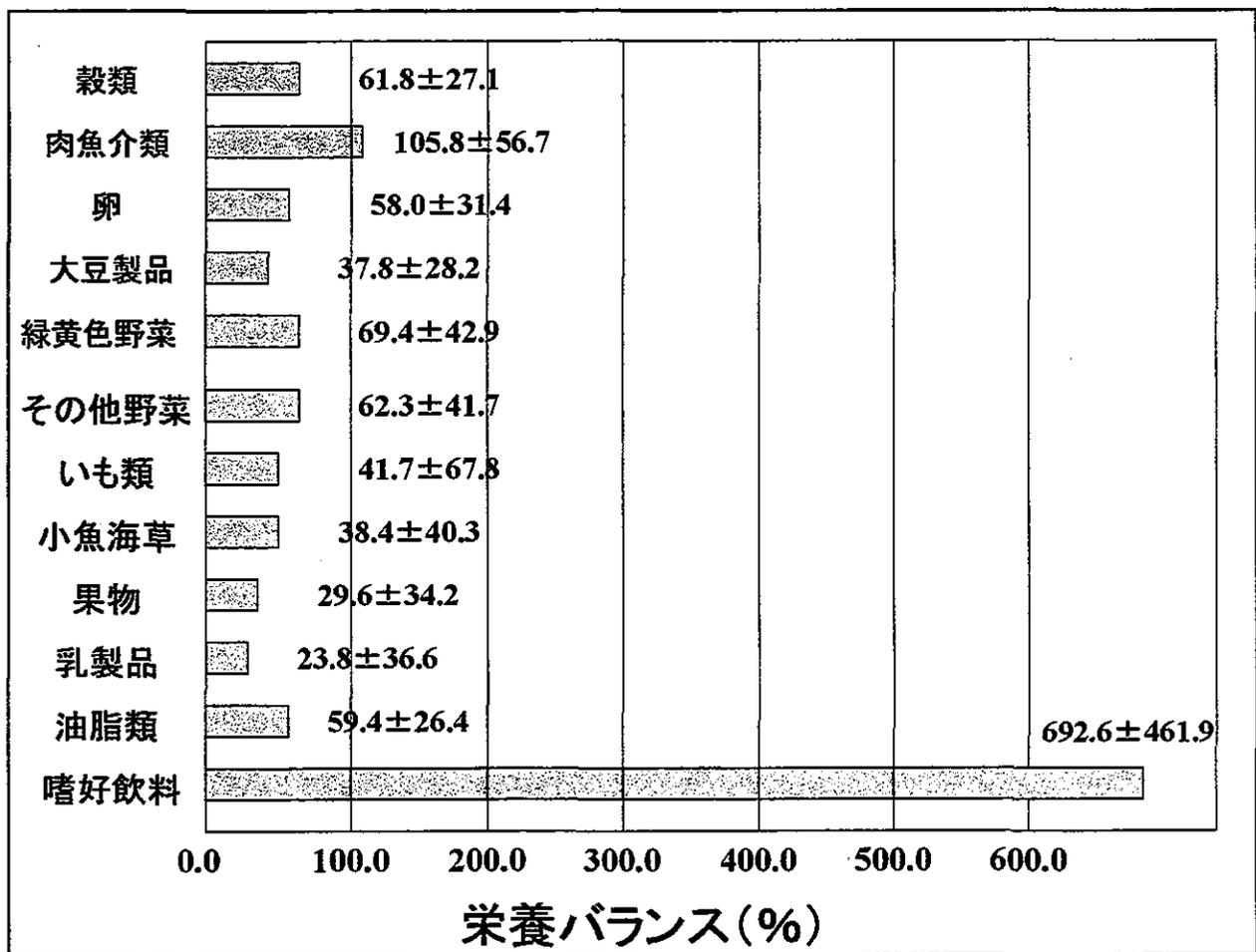
心理的経過	精神状態
第1期: ショック期	感情喪失(症候性うつ状態)
第2期: 否認期	事実からの回避、拒絶
第3期: 混乱期	絶望、憂鬱、悲嘆、
第4期: 努力期	介護の状態に対する反応
第5期: 適応期	障害受容、新たな人生設計

障害そのものは、不便であるが、不名誉なものではなく、人間そのものの価値を左右するものではない。

岡山県の障害者スポーツ選手 (テニス、マラソン、バスケットボール)

障害区分	人数	年齢
脳性麻痺	3名(女性1名)	29.3±6.3歳
頸髄損傷	1名	49歳
胸髄2~7	6名	30.3±6.1歳
胸髄9~12	7名	35.3±8.4歳
腰髄・仙骨	4名	38.0±10.6歳
切断	1名	22歳





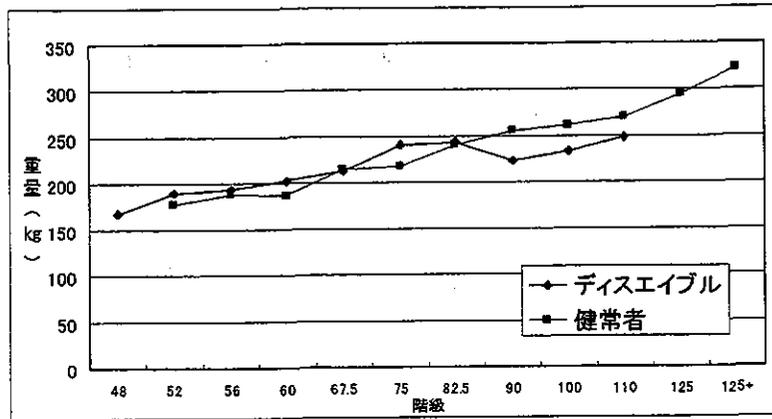
クラス分け: パラリンピックでのパワーリフティング種目

- 切断
- 脳性麻痺
- 脊髄損傷
- その他

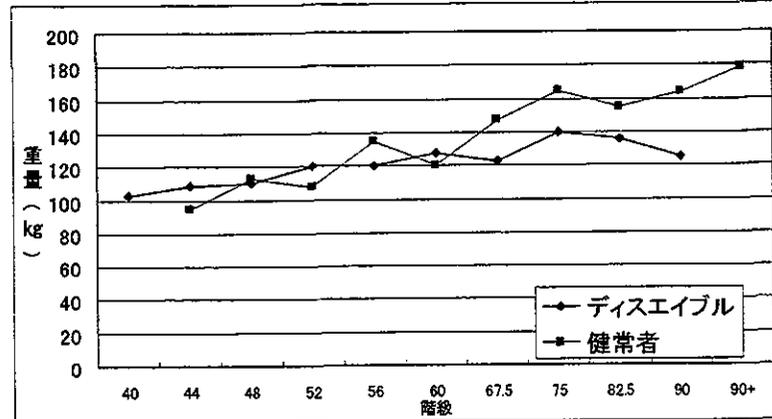
* 国内ではさらに視覚障害、聴力障害に分けられる

・ ディスエイブルと一般の世界記録

・ 男性



・ 女性



障害者スポーツの課題

・ 施設

「わが国の障害者スポーツは、スポーツ実施条件のなかでもっとも大切なスポーツ施設が、施設数・施設内容ともにきわめて貧弱である(芝田 1995)」

「全国51地域の公共スポーツ施設での身体障害者の利用件数は、244件で、1地域当り4.8件の利用しかない(身体障害者スポーツ調査研究報告書 1989)」

・ 指導者

「障害者スポーツがまだ未発達であるため、指導者に対する社会的要請が少なく、養成しても就職口がない(芝田 1995)」

「障害者スポーツに関する研究と成果を、多くの指導者が享受できるように、障害者スポーツ指導者を中心としたネットワークづくりをすることが必要(後藤 1992)」

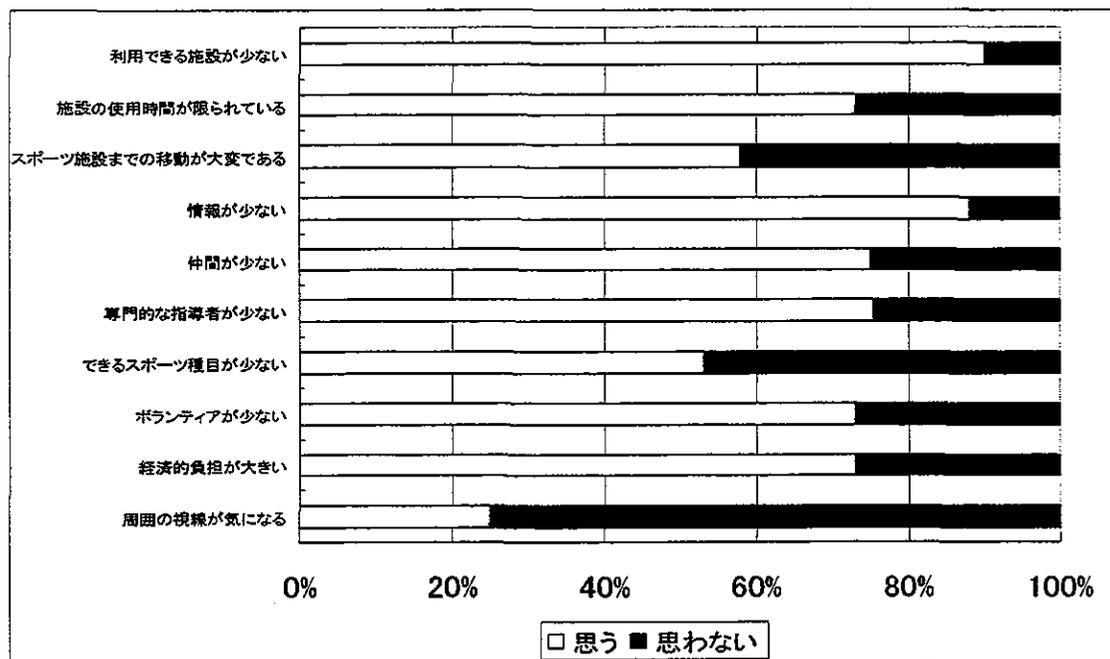
・ 情報

「ネガティブな障害者のイメージの克服、正しい障害者理解への啓蒙、そして、そのための適切な情報の提供という作業が、今後の課題(草山ら 1998年)」

「これまでのスポーツ情報論は、その授受の対象に障害のないことを暗黙裡に認め、これを前提としてきた。したがって、障害をもつ人のスポーツのための情報に関する研究は手つかずの状態である(武隈ら 1997)」

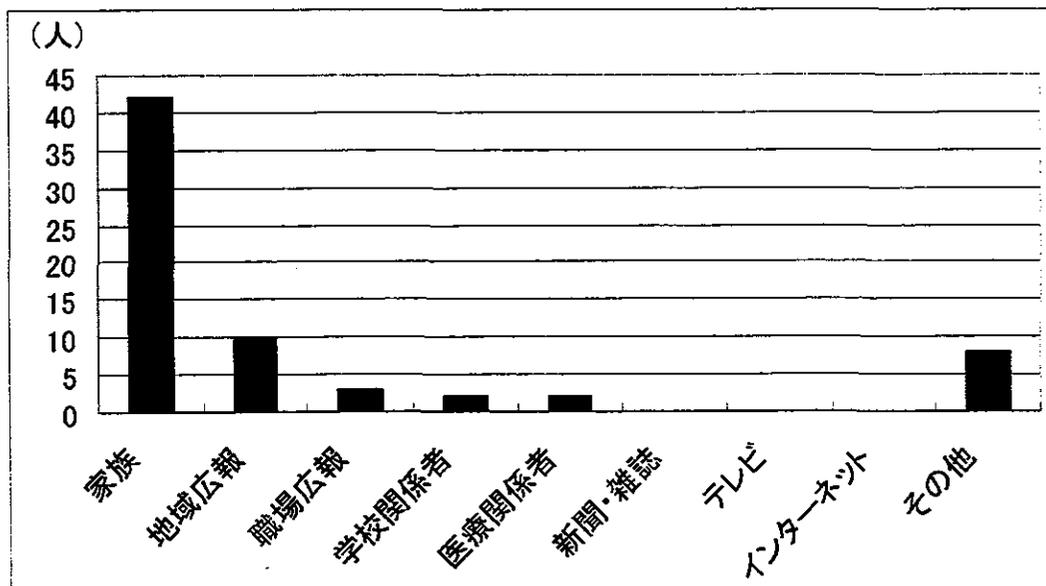
スポーツをする上で不便に思うこと(n=63)

2003年9月:岡山市勤労身体障害者体育センターで調査



スポーツ情報の入手方法(n=63)

2003年9月



* 家族や知人などの口コミによるものが多く、新聞・雑誌、テレビ、インターネット等は皆無であった。

第1回岡山県障害者スポーツ大会 競技別内訳

競技種目	計	身体	知的
陸上競技	1,259人	20種目 / 619人	11種目 / 640人
水泳	45人	8種目 / 29人	3種目 / 16人
アーチェリー	11人	2種目 / 11人	なし
卓球	114人	盲人含 / 46人	68人
フライングディスク	316人	2種目 / 26人	2種目 / 290人
ボウリング	225人	なし	225人
車椅子バスケットボール	43人	4チーム / 43人	なし
グランドソフトボール	49人	3チーム / 49人	なし
ソフトボール	91人	なし	8チーム / 91人
フットベースボール	71人	なし	6チーム / 71人
合計	2,224人	823人	1,401人

肢体:597人、視覚:117人、聴覚:109人、知的:1,401人

年齢は10代・20代が多く、最高齢者は87才(ソフトボール投げ)

役員:305人係員:252人ボランティア:259人 参加者総勢3,040人の一大イベント

* クラス分け...100mだけで26回ある

組織上の課題 全国障害者スポーツ大会

全国身体障害者スポーツ大会
1965(S40)～
国体後に同施設等で開催

全国精神薄弱者スポーツ大会
(ゆうあいピック)
1992(H4)～

第1回全国障害者スポーツ大会(2001【H13】宮城県)
はじめて身体障害者と知的障害者が
合同で大会に参加

第5回全国障害者スポーツ大会(2005【H17】岡山県)

国民体育大会と全国障害者スポーツ大会

国民体育大会

全国障害者スポーツ大会

○大会主催者

- (財)日本体育協会
 - 文部科学省
 - 開催地都道府県
- ### ○各競技会主催者
- 日本体育協会加盟競技団体
 - 会場地市町村

○大会主催者

- 厚生労働省
- (財)日本障害者スポーツ協会
- 開催地都道府県・指定都市及び開催地市町村

平成14年4月1日より

旧 岡山県国体推進局

総務企画課
競技式典課
施設調整課

新 岡山県国体・障害者スポーツ大会局

総務企画課
競技式典課
施設調整課
全国障害者スポーツ大会班

第5回全国障害者スポーツ大会

- 平成17年晴れの国おかやま国体終了後開催。
- 岡山市は大会主会場としての大きな役割をもつ。
 - ・ 陸上競技(桃太郎スタジアム)
 - ・ アーチェリー(岡山操車場跡地公園)
 - ・ 車椅子バスケットボール(岡山県体育館)
 - ・ グランドソフトボール(岡東浄化センタースポーツ広場)
 - ・ ソフトボール(岡山ドーム)
 - ・ フットベースボール(浦安総合公園野球場)
 - ・ バレーボール(岡山市総合文化体育館)

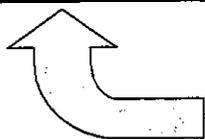
全国大会開催に向けて集まる情報

- ・障害者スポーツの実施状況
- ・全国大会実施上の諸注意
- ・全国大会採用種目以外のスポーツの情報
- ・スポーツ・ボランティア(サポーター)希望者の情報
- ・ボランティア実施上の諸注意
- ・障害者スポーツ実施可能な施設
- ・車椅子対応宿泊施設の情報
- ・点字訳メニューのある飲食店情報
- ・車椅子用トイレのある飲食店情報
- ・車椅子駐車場情報
- ・スポーツ選手の食生活情報
- ・視覚障害者の食生活情報
- ・聴覚障害者のための要約筆記や手話ボランティア情報
- ・障害者雇用情報 ・褥創予防情報 …etc.

<様々な分野の情報を大会後、いかに活用していくか>

<障害者・高齢者の健康に関する問題>

- ・不活動に陥りやすい。
- ・生活習慣病にかかると「寝たきり」に直結しやすい。
- ・食生活に関するバリアの存在
- ・在宅の場合、スポーツ実施の機会が少ない。



上記をサポートするボランティアの需要・供給のミスマッチも指摘されている。

障害者にとって・・・

「心・技・体」

障害者スポーツ

「衣・食・住」

健やかな生活

教育・医療・福祉
雇用問題

最近の岡山県内の動向

NPO岡山県障害者スポーツネットワーク

- 平成12年より始動。(情報収集や発信活動)
- 産・学の連携による。
- 活動を評価され、厚生労働省より3年間の科学研究費補助金を受ける。
- 平成16年6月に特定非営利活動法人格取得。

岡山市西部新拠点基本計画

ふれあいスポーツ・フェスティバル

- 平成15年度に岡山ドームにて開催。
- 産・官・学の連携による。
((財)岡山市ふれあい公社)
- 健常者、障害者問わず1万人の市民が参加。

NPO健康ライフネット

- 平成16年より始動。
- 市民の健康づくりに関する組織。
- 産・官・学の連携による。
- 健康教育・指導等を幅広く計画できる。

全国障害者スポーツ大会後の岡山市

- 全国障害者スポーツ大会を契機に、集約された情報を整備する。
- 障害者が安心してスポーツを実施できる環境整備や生きる力・目標を与えることができるような情報の発信を行う。
- スポーツ競技力強化。
- さらに、産・学・官連携により、西部新拠点地区整備基本計画に連動し、障害者のみならず、子供から高齢者までに優しいバリアフリーのまちづくりの推進に寄与する。

障害者スポーツの発展

	北米	日本	米国
1880	ロンドンで下肢切断者による競馬走(義肢・杖使用)。		
1888	ベルリンで視覚障害者のスポーツクラブが発足。		
1896	オリンピック第一回大会(アテネ)		
1914	第一次世界大戦(~1918)		
1919	ドイツで視覚障害者スポーツ協会設立。		
1922	イギリスで身体障害者自動車クラブ設立。		
1923	国際聾唖者スポーツ協会(OISS)。		
1924	フランスで国際聾者スポーツ委員会発足。		
1925	第一回世界聾者競技大会開催(ギリ9カ国参加)。 以後、大戦をはさんだ10年を除き、ほぼ4年に一回開催。 →日本は1965年から参加。	第一回日本聾唖協会陸上競技大会開催。 →1931年日本の優勝戦争開始後まもなく姿を消す。	
1926			
1928	ドイツで視覚障害者のスポーツ団体設立。		
1932	片腕ゴルフアーマーのための英国ゴルフ協会設立。		
1941	第二次世界大戦(~1945)		
1944	ロード・イットヒングッドマン卿がロンドン郊外のストークマ・テビル病院内に腎臓病センターを開院。英国政府の要請により、疾病軍人のリハビリとしてスポーツを導入。		
1945	第二次世界大戦終結 国際ストークマン・テビル車いす協連連盟(ISMWWGF)設立。	太平洋戦争終結。	
1947	第一回国際ストークマン・テビル車いす協連大会。		
1948	国際車いす競技大会開催。		
1949	第一回世界聾者冬期大会開催。		
1951	国際身体障害者スポーツ組織(ISOD)設立。当初は切脚、弱性麻痺、その他の機能障害から構成。	全日本ろうあ連盟発足。 中四国地区第一回野球大会。 身体障害者福祉法制定。	
1952	イギリスのアイレズベリーで国際ストークマン・テビル競技連盟が設立。	東京都が身体障害者の運動会を開催。	
1955	国際ストークマン・テビル競技大会 以後毎年開催。 →日本は1962年に参加	第一回全国聾唖者優勝野球大会。	
1957	下肢麻痺リスハルテル夫人は、デンマークの乗馬競技の代表として、フィンランドでのオリンピックに出場。組メダルを獲得し、世界中の賞賛を浴びる。 リスハルテル夫人の成功に刺激されたイギリスは、障害のある子どもや成人に乗馬を取り入れ義務させる。 ノーマライゼーション理念が、デンマークの1959年福祉法に盛り込まれる。		
1959	この理念を整理し、成文化した「ノーマライゼーションの原理」が社会変革をもたらす指標となった。		
1960	旧西ドイツ・ゴールデルンブラン(15カ年計画) ~1975 オリンピック開催地のローマで初の世界的な障害者スポーツ大会が開催される。	大分県別府市国立別府病院、神奈川県国立箱根療養所で車いすバスケットボールが紹介される。リハビリテーションの手段として取り入れられる。 第一回大分県身体障害者体育大会開催。	
1961	英国身体障害者スポーツ協会設立。		
1962	若年身体障害者除く身障者を対象に、「世界身体障害者スポーツ協会」が発足。		
1963	第一回世界身体障害者競技大会が、オーストリアのリンツで14カ国240名の選手によって開催される。	厚生省より「身体障害者のスポーツの振興について」の通達が出る。財団法人国際身体障害者スポーツ選手委員会が設立。 東京オリンピック。 東京パラリンピック。 第一部 車いす選手参加の国際ストークマン・テビル大会。 第二部 車いす選手を除いた身体障害者による国内	故ケネディー大統領の妹ユニース・ケネディ・シュライバー夫人が、知的発達障害のある人たちに、自宅の庭を開放してサマー・キャンプを開く。 「公民権法」改正。
1964	イギリスで障害者乗馬助言委員会が全国組織として結成。		

1965	国際身体障害者スポーツ大会運営委員会が、「財団法人日本身体障害者スポーツ協会」と名称変更し設立。 6月 第一回全国身体障害者スポーツ大会が岐阜県で開催。 11月 一生に一度しか出場できない「動機付け大会」大会。
1967	
1968	
1969	障害者乗馬助成委員会が再結成されて、FDA(障害者乗馬協会)となる。
1970	ドイツ療養乗馬協会が設立される。 乗馬療法についての記事が医学新聞によって、日本に初めて障害者乗馬が紹介される。
1972	国際障害者乗馬連盟第一回世界大会がバリエで開催される。
1973	
1974	
1975	「ヨーロッパみんなのスポーツ憲章」。
1976	冬期パラリンピックがこの年以降、冬期オリンピックの開催地で行われるようになる。第一回大会は、スエーデンのエルンステルヴィークで17カ国305名が参加した。
1978	ユネスコ「体育スポーツ国際憲章」採択。 「国際慢性障害者スポーツ・レクリエーション協会(CP-ISRA)」設立。ISODから慢性麻痺群が分離独立したものを。
1979	
1980	「国際視覚障害者スポーツ協会」設立。
1981	「国際障害者青年(YOYP)」。スローガンは「完全参加と平等」。
1982	「国際盲人スポーツ協会設立(IBSA)」
1983	「国連障害者の十年」宣言。 「国連障害者の十年」開始。(～1992) 国際調整委員会(ICC)が発足。
1984	
1986	「国際精神薄弱者スポーツ協会(IPC)」設立。
1988	
1989	「国際パラリンピック委員会(IPC)」設立。
1990	
1991	
1965	カリフォルニア州が障害を持つ人々に、アクセスを保証する条項を州法に盛り込むことを議決。
1967	
1968	
1969	Happy Horsemanship for the Handicapped設立。 スペシャルオリンピックの活動は、ジョセフ・P・ケネディ財団の支援を受けて、組織化。 国際スペシャルオリンピック委員会(ISOC)。 アクセスに関するカリフォルニア法制定(公的資金による建物に適用)。 NARHA(北米障害者乗馬協会)設立。 アメリカで初めてミシガン州各所に、障害者乗馬センターが設立。 アクセスに関するカリフォルニア法制定(私的資金による建物に適用)。 19頭の馬とボニーで、障害者の乗馬を開始。
1970	
1972	エドワード・ロバーツらが、自立生活センター(CIL)を設立。 政府から8万ドルの補助金を受け、カリフォルニア大学バークレー校(UCB)に、障害学生プログラム(DSP)が発足。 「リハビリテーション法」改正。 バリアフリー(Barrier Free)という用語が、1974年国連障害者生活環境専門会議の「Barrier Free Design」報告書から、建築用語として登場。 国連第30回総会で「障害者の権利宣言」を採択。 「全障害者教育法」制定。分権教育から統合教育へ。インテグレーションの動向。
1973	
1974	
1975	
1976	
1978	第一回アメリカ盲人選手権大会開催。初めての競技別の国際大会。 国連総会で「国際障害者青年長期行動計画」を採択。
1979	
1980	
1981	
1982	ユニバーサルデザイン(ロナルド・メイヌ:ノースカロライナ州路澤大卒) カリフォルニア州が「タイトル24」を制定。 エドワード・ロバーツらが、自立生活運動を直接政府に働きかけ、世界障害問題研究所(WID)を設立。
1983	
1984	
1986	「通常教育主導主義(REI)」主張。インクルージョン論争へ。
1988	
1989	アメリカ切断障害者連盟(ACA)が非営利的教育団体として法人登録。 「ADA法」制定(障害を持つアメリカ人法:物理的・社会的・心理的差別) 個別障害者教育法。
1990	
1991	
1970年代	1970年代に入って、「スポーツ・フォア・オール(みんなのスポーツ)」という理念がでてきた。スポーツの大衆化。
1972	心身障害者対策基本法制定。
1975	第一回障害者大分県大会開催される。18カ国参加。 日本車いすバスケットボール連盟結成。
1978	第一回大分国際車いすマラソン大会開催。
1982	「障害者対策に関する長期計画」 ～1982 各地方公共団体が、身体障害者スポーツ協会の設立、障害者のスポーツ大会定期開催の決定、障害者のためのスポーツ施設の設置等の活動を行う。 全国車椅子陸上競技選手権大会。大阪市。 日本盲人マラソン協会結成。
1984	日本身体障害者陸上競技連盟結成。
1986	ゴールドプラン(高齢者保険福祉推進10カ年戦略)
1988	夏のスペシャルオリンピック世界大会に、熊本から10才のアスリートとコーチが個人的に参加。体操競技で銀メダル獲得。 ジャパンパラリンピック陸上競技大会、ジャパンパラリンピック水泳大会が開催。一年度でも出場可能。

1992	12月3日「国際障害者の日」を宣言。	
1993		
1994		全国精神障害者スポーツ大会「第一回ゆうあいピック」東京大会開催。 中央心身障害者対策協議会が「国連・障害者10月」以降の障害者対策推進本部会議において「障害者対策に関する新長期計画－全員参加の社会づくりをめざして－」を策定。 3月「障害者対策のあり方について」を提出。 「アジア・太平洋障害者の十年」。 「障害者基本法」改正。 「スペシャルオリンピックス日本・東京」設立。 「スペシャルオリンピックス日本・東京」統括して、「スペシャルオリンピックス日本」が設立。 「ハートビル法」(高齢者・身体障害者等が円滑に利用できる特定建築物の建築の促進に関する法律)施行。 障害者白書国会提出 公表。 日本障害者乗馬協会 発足。 「市町村の障害者計画策定に関する指針」が出る。 12月「障害者プラン～ノーマライゼーション7カ年戦略～」発表。
1995	「国際聴覚障害者スポーツ連盟」がIPC脱退。	
1996	第10回パラリンピック(アトランタ)開催。	→2002年を目標に置いた具体的な実施計画。 第33回ふれ愛ピック大阪開催。 通産省の「グッドデザイン賞」に「ユニバーサルデザイン賞」が新設 冬季パラリンピック(長野)。 「財団法人日本障害者スポーツ協会」に改名。 日本パラリンピック委員会(JPC)を設置。 第30回大会きさらびんピック岡山開催。 パラリンピックマガジン創刊。 岡山県障害者スポーツ協会 設立 交通バリアフリー法制定 第一回全国障害者スポーツ大会(宮城)開催。 (ゆうあいピックと身障団体の共同開催) リハビリテーション・シヨニオン体育士会の設立。
1997	ボニ市(ドイツ)がIPCの本部勝致に成功。	日本障害者スポーツ協会専門委員会に科学委員会が加わる。
1998	1998 IPC事務局始動。	
1999	第7回フエスピック大会(バンコク)開催。	
2000	第11回パラリンピック(シドニー)開催。 「国際知的障害者スポーツ連盟(INAS-FID)」に改名。	
2001	「ドイツ障害者スポーツ連邦(DBS)」50周年。 第19回世界ろう者競技大会(ローマ)よりIOCGの承認を受け「Deaflympic」となる(国際手話により行うためIPCには加盟していない)。	
2002	ソルトレイク大会開催 第8回フエスピック大会(韓国・釜山)開催。 「東アジアパラリンピック委員会(EAPC)」設立。 「アジアパラリンピック委員会(APC)」発足。 第11回フエスピックユース大会(香港)開催。 国際パラリンピック委員会(IPC)マネージメント委員会開催。 国際パラリンピック委員会総会開催(トリノ)。 INAS-FIDの本部がスウェーデンに設立。 国際パラリンピック委員会(IPC)がアテネで開催。 (IPCの新しいロゴ、モットーが決定)。 EAPCを「アジアパラリンピック委員会(APC)」へ改称が承認。 第13回国際パラリンピック委員会(IPC)協議委員会(ボン)で開催。	
2003		ジャパンパラリンピック冬季競技大会開催。 「日本スポーツ仲裁機構」設立。
2004	国際連合はスポーツ・身体教育の国際年として2005年を宣言 カイロ(エジプト)で国際パラリンピック委員会特別総会開催。 国際身体障害者スポーツ機構(ISOD)が合併して、 国際車椅子・切断者競技連盟(ISMWSF-ISOD)新名称決定。 国際脳性まひ者スポーツ・レクリエーション協会総会(スコットランド)でアラン・ディクソン・ドレイギリスに新会長決定。 「第22回国際障害者の日」をブロンペン(カンボジア)を祝う。 「みんなのスポーツ」の第10回国際議会(ローマ)で開催。 NPOドイツはスポーツのすばらしい功績をおさめた者(男性1人女性1人)に与える賞を設立。 国際パラリンピック委員会(IPC)は2008年北京パラリンピックシンボルを承認。 国際パラリンピック委員会(IPC)はスリナムとハイチに委員資格を与えた。(157加盟国で構成)	オリンピックの栄誉ある10人のうちの1人としてランディが殿堂入りした。 Physical education2005を宣言。
		第24回国際大分車椅子マラソン 医学会顧問初山泰弘先生パラリンピックオクターダー受賞。 NPO岡山県障害者スポーツネットワーク発足 第1回ふれあいスポーツフェスティバルinおかもやま 開催 スペシャルオリンピックス岡山 設立 第5回国際障害者スポーツ大会(岡山)

カリフォルニア州「タイトル24」改正。